

お客様の自己表現をお手伝いする トータルプランナーでありたい



● (有)竹下建具工芸

代表取締役 社長 竹下 茂 満 さん

今年の七月に全国建具展示会滋賀大会が開かれた。全国から一三五社が参加し、大川からは七社が出品。そしてそのうちの五社が入賞している。改めて大川建具の伝統と質の高さを認識させるものとなった。

今回の夢追い人では、この大会で林野庁長官賞を受賞した、(有)竹下建具工芸の社長、竹下茂満さんにスポットを当ててみたい。

インタビュウをしてまず驚いたのは、全国建具展示会に出品し始めて、十数年になるそうだが、毎回欠かさず入賞しているそうだ。会社の応接間には、数多くのトロフィーや賞状が並んでいる。これらは確かに竹下建具工芸の技術力や企画力の素晴らしさを物語っている。

今年受賞したのは、変形モダンドア。ウォルナット材、ブナ材の小口の組み合わせで、シンプルな模様を印象的に描き出している。豪華で美しく華やかなドアである。

竹下さんは、このたびの受賞の要因として、「共生」とい

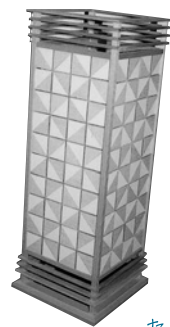
うキーワードをあげた。
「共生」とは、どういう意味だろうか。

「大川には家具関連業種がいくつもあり、有能な人材も豊富。互いに協調することによって優れた製品を生み出すことができます。この作品も建具の技術だけでは決して作られません。小口のウォルナット材、ブナ材の接着の技術は、実は、資材屋さんからの協力で得られたものです。そして昨年の受賞作品も、ガラス業者との「コラボレーション」です。互いに手を取り合うことによって、大川ならではの作品作りができると思っています。」と竹下さんは語る。

この作品には、美のところが、もう一つのキーワードが隠されている。何だろうか。

それは、「環境に対する心配り」とある。

「小口のウォルナット材、ブナ材は、本当のことなのですが、端材です。そのままでは焼却



端材を使った
灯籠

夢

追

い

人

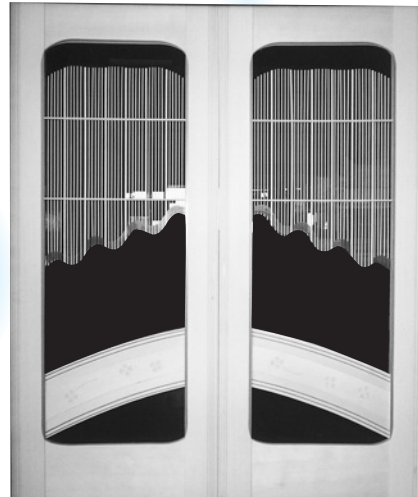


今年の全国建具展入賞作品
(林野庁長官賞)

自然素材で
安らぎ感がある
(間伐材使用)



ガラス業者とのコラボレーション
昨年の全国建具展入賞作品



炉で燃やされる運命にある材を何とか有効利用したいと考えました。端材を生かすことも環境に対する優しさだと思います。」

この点で、竹下さんの思いは一貫している。他に端材利用の灯籠、さらに凄いのは、なんと間伐材を使ったドアなども商品化しているのだ。頭が下がる思いだ。

さて、今度は会社の特色に話を移そう。竹下建具工芸は、前述したように高い技術力を持った会社だ。でも単に職人技術の会社ではない。竹下さんはこう言う。「お客様の自己表現をお手伝いするトータルプランナーでありたいと思いつけています。」

どのようなシステムを取るのだろうか。

まず、オリエンテーションを行い、顧客の要望を十分に把握するように努める。それから、企画・設計を行う。そして基本計画を策定する。次いで、

それに基づくプレゼンテーションを行い、顧客に全体像を把握してもらおう。そして細かい点での要望を受け、さらに再調整を施す。こうして初めて施工、制作に入る。

「長く使っていただく建具を、まさにお客様が満足できるように作り上げること、これが私たちの目標です。喜んでいただく姿を見ることは、本当に嬉しいものです。」

次の若い世代の育成にも力を注いでいる。全国建具展示会の受賞作品は、若い従業員たちが中心になって制作した。竹下さんは「若い人たちが物作りの楽しさを味わい、生き甲斐と夢にまでなしてほしい。」と心から願っている。



賞状・トロフィーの数々!!!